

清水征樹教授略年譜および主要著作目録

略年譜

- 一九四三年 四月 二日 長野県諏訪郡原村に生まれる
- 一九五九年 四月 長野県立松本深志高等学校入学
- 一九六二年 三月 同 卒業
- 一九六三年 四月 同志社大学法学部法律学科入学
- 一九六七年 三月 同 卒業
- 一九六七年 四月 同志社大学大学院法学研究科公法学専攻修士課程入学
- 一九六九年 三月 同 修了
- 一九七〇年 四月 鹿児島大学法文学部法学科助手
- 一九七四年 三月 鹿児島大学法文学部退官
- 一九七四年 四月 同志社大学法学部専任講師
- 一九七六年 四月 同志社大学法学部助教授
- 一九八八年 四月 同志社大学法学部教授
- 一九九九年 十月 十九日 逝去

主要著作目録

論 文

一九六九年

道徳の法的強制に関する H・L・A・ハートの見解

(『同志社法学』一一五号)

一九七〇年

法的思考方法における二律背反の問題性

(『同志社法学』一一六号)

—— W・フリードマンの指摘と問題点

戦後法学の原点と実証主義的思考方法に関する一考察

(鹿児島大学法文学部紀要『法学論集』六卷二号)

—— W・フリードマンの指摘を素材として

一九七二年

法の妥当基準に関する R・W・M・ダイアスの見解

(法哲学年報一九七一『法的推論』有斐閣)

一九七四年

J・S・ミルと一九世紀イギリス法思想の一断面

(法哲学年報一九七三『法哲学の課題と方法』有斐閣)

—— 『自由論』を素材として

一九八三年

ホップズの「犯罪と刑罰」論に関する一考察

(『同志社法学』一八〇号)

—— 主著『リヴァイアサン』を素材として

一九八七年

社会科学の成立と発展

(恒藤武二編『ヨーロッパ思想史』法律文化社)

—— ダーウインからマルクスまで (素描)

一九八八年

法社会学と進化論的思考——法社会学理論史試論（一）

〔同志社法学〕一九八号

「法社会学論争」について

〔同志社法学〕二〇〇号記念論集Ⅰ

一九九一年

脳死と臓器移植をめぐるわが国の議論の仕方について（一）

〔同志社法学〕二二三号

一九九八年

「海と法文化——海から見る二十一世紀の法文化」について

〔同志社法学〕二五五号

——比較法文化学会第一回「研究交流」全国大会「基調報告」より

その他

一九七二年

論文紹介：Wolfgang Friedmann, 'Interference with

〔アメリカ法〕二号

Human Life: Some Jurisprudential Reflections',

*Columbia University Law Review*, vol. 70, no. 6 (1970)

一九七五年

近代法の基本原理と構造

（八木鉄男編『法学概論』青林書院新社）

法律家の任務と社会的役割

（同右）

法律家と人権擁護をめぐる諸問題

（同右）

世界平和と法

（同右）

主要著作目録

同志社法学 五二巻六号

三九七（二三三三）

主要著作目録

一九八三年

科学・技術・産業の発展と現代法

同志社法学 五一卷六号 三九八 (二三三四)

(恒藤武二編『教材法学』ミネルヴァ書房)